

国境を越える 日本人の活躍

第24回フェスティバル・デ・ヘレス



小島章司とハビエル・ラトーレ
©Festival de Jerez / Javier Fergo

2 月21日から3月7日まで、ヘレスで開催されたフラメンコとスペイン舞踊のフェスティバル、第24回ヘレスのフェスティバル。今年も、世界中から集まったフラメンコを愛する人たちで賑わいました。

コロナビールスの影響で、中国やイタリアからの参加者が来られなかったり、またクルシージョが行われるスタ

ジオには消毒液が置かれていたりと、例年とはちょっと違うところもあったものの、充実のプログラムを堪能することができました。幕開けのラファエラ・カラスコ『アリアドナ』、マルコ・フローレス『ラジュエラ』、スペイン国立バレエ団新作など質の高い作品も多く、ファルーやベレン・マジャ、アンドレス・ペニャの公演も心に残り

取材／志風 恵子
Texto por Kyoko Shikaze

ます。またラファエル・リケーニのリサイタルも素晴らしかったです。そんな中、日本人の活躍もこれまで以上に目立った年だったと思います。

小島章司『ロルカxバッハ』 2月25日／ビジャマルタ劇場

小島章司は、『ロルカxバッハ』をビジャマルタ劇場で上演。xはエキスではなくポルと読み、掛け算の掛けるという意味でもあります。ロルカの世界をバッハの音楽で彩りたい、という小島の発想から作り上げられた作品です。ハビエル・ラトーレが振付演出を担当し、クリスティアン・ロサーノやホセ・マルドーナードといった昨年、自身の作品をフェスティバルで発表しているソリスト・クラスが集まって作り上げたので質は保証付き。音楽は長年小島作品の音楽監督を務めるチケウロがジャズピアニストのマルコ・メスケダと担当。バッハの音楽やそのイメージがフラメンコと組み合わさっています。ホセとカレン・ルゴがパレハで、でも時によっては一人で踊っているように見えるバタとマントンのカーニャや元国立バレエのカルメン・コイとダニエル・ラモスが見せるエスクエラ・ボレーラでのガロティン、クリスティアンのサバテードなど、ソロ曲とともに、華やかな群舞も。ハビエルは舞台上の人の動かし方が上手です。小島のタレントも多くの人強い印象を残しました。

秦晴美2月22日ペニャ、 ロス・セルニカラス

ヘレスはスペイン一、フラメンコのペニャが多い街」だと言います。毎年、幾つかのペニャでも主に地元アーティストによる公演が行われているのですが、今年はなんと、そのトップバッターで、秦晴美さんが登場しました。大阪出身で「18年前からヘレスと日本を行ったり来たりしている」彼女ですが、ヘレスで舞台に立つことはあまりないそう。今回はペニャからのオファーでヘレスのフェスティバル出演が叶いました。アレグリアスとソレアを踊り、クルシージョ受講生や地



コンクール優勝の石川慶子

©Giovanni Bottisio, Equipo fotos&video del Concurso 2020

元の人たちなどにも好評だったようです。「共演者が厚みのあるフラメンコとコンパスを送ってくれてお客様もそれを感じ、強い一体感を感じることができたことに感動しました。ペニャと市に感謝しています」

国際舞踊コンクール

またフェスティバルの開始直前には、イタリアのモニカ・モッラが、セビージャの舞踊教授マヌエル・ベタンソスと主催する国際舞踊コンクールが開催されました。これは元々イタリア・トリノで開催されていたのですが、昨年会場をヘレスに移したところ、応募者も増えレベルも上がり、今年も開催されたものです。

このコンクールの特徴の一つは部門が非常に細かく分かれていること。群舞もノンプロもしくはミックス、そしてパレハとあり、個人は生徒(子供、青少年、大人、シニア)、ノンプロ(ジュニア、プログレソ、シニア)、プロソリスト(若手、大人、シニア)とそれぞれの部門が年代によってさらに分かれているのです。そして優勝者はヘレスのフェスティバルで踊ることができる、フィグーラ部門もあります。その部門での順位付けだけでなく、フラメンコ教室受講奨学金、タブラオ出演などの賞品のある特別賞も多数用意されているのです。審査員は第一線で活躍

する踊り手たちで、ベタンソスのほか、アリシア・マルケスとマヌエル・リニヤンの3人。

今年も数人の日本人が参加し、40歳以上のソリストシニア部門で石川慶子が見事優勝しました。また昨年生徒シニア部門で優勝した押野由起子が今年はノンプロソリストシニア部門で2位。また、宇根由佳や屋良有子、クララ・ヴォダルツが特別賞を受け取っていました。なおこのコンクールでは2015年にフィグーラ部門で井口裕香里が優勝、萩原淳子が準優勝しています。萩原は2018年のガラ公演に、2017年にソリスト部門で優勝した牛田裕衣らとともに出演しています。

「2015年に参加し入賞できなかったリベンジが出来てもの凄くうれしいです」という石川慶子は22日にサラ・コンパニ亞で開催されたコンクールのガラ公演にも出演し、マントンとバタ・デ・コーラの見事なアレグリアスを踊りました。

オフ・フェスティバル ラ・グアリダ・デル・アンヘル

フェスティバルの公式なイベント以外にも日本人が出演している公演があります。それが、ライブハウス“ラ・グアリダ・デル・アンヘル”が主催するオフ・フェスティバル。今年で9年目を迎えるこのイベント、17時から2時

間ごとに入れ替え制で様々な公演が行われます。カブージョやドローレス・アグヘータら地元アルティスタはもちろん、ラファエル・カンパージョやヘマ・モネオなどフェスティバルでも公演したことのあるアルティスタたちから、地元のフラメンコ教室の面々まで、バラエティに富んだプログラムです。入場料も6ユーロから20ユーロまで様々。早い時間には観光客やクルシージヨ生が多いですが、遅い時間や有名アルティスタの公演には地元の人たちも詰めかけます。

このフェスティバルでは2月21日のフェスティバル開幕日は毎年、日本人の公演と決めているのだそうですが、今年はそこに、エミリオ・マジャが日本でのオーディションにより選んだメンバー、屋良有子、内田好美、小林泰子、矢村万意子、服部亜希子、渡辺都美らが出演しました。このグループの19時からの公演に引き続き21時から行われたダニエル・トーレスの公演には小池朱美が、また27日のファン・ボルビージョの公演には川本典子、石川慶子、檜直子が出演。また、3月3日17時からは萩原淳子と中田佳代子、4日19時には長嶺晴香が出演しました。

フラメンコには国境はないと言いますが、ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ国境の町ヘレスでの日本人の活躍、今後もさらに進みそうな予感です。